

適期中干し・溝切りを行い、生育量の適正化を！

ここがポイント！！

- 1 中干しは、目標穂数の7～8割の茎数を確保したら直ちに開始する
- 2 溝は間隔2.5m程度、深さ10cm以上とし、末端は必ず水口、水尻に繋げる
- 3 補植苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除く

1 初期生育確保に向けてワキ対策

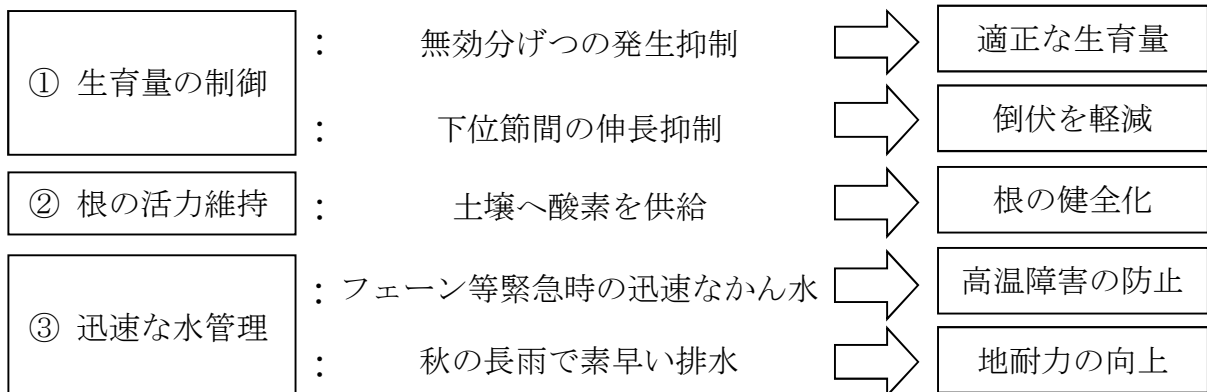
- 活着後は浅水管理により下位分げつの発生を促す。ワキの発生がみられる場合は、表1を参考に対策を実施する。
- 晴天・高温が続くと表層剥離やアオミドロ等が多発する。この場合は、早めに夜間落水や用水の更新などを行う。

表1 ワキの発生程度とその対策

ワキの程度	ワキの発生程度	水稻生育への影響	対策	
			5月下旬	6月初旬
希	水田に足を踏み入れても気泡の発生がない。	なし	—	—
少	水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生が見られる。	なし	—	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根活力低下	用水の更新	用水の更新
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する。	根張り不良	中耕と用水の更新	用水の更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡を発生し、音が聞こえる。また、水田を歩くと著しく気泡を発生する。	根伸長阻害 地上部黄化	中耕と用水の更新を繰り返す	間断かん水

2 中干し・溝切りの適期実施

(1) 中干し・溝切りの効果

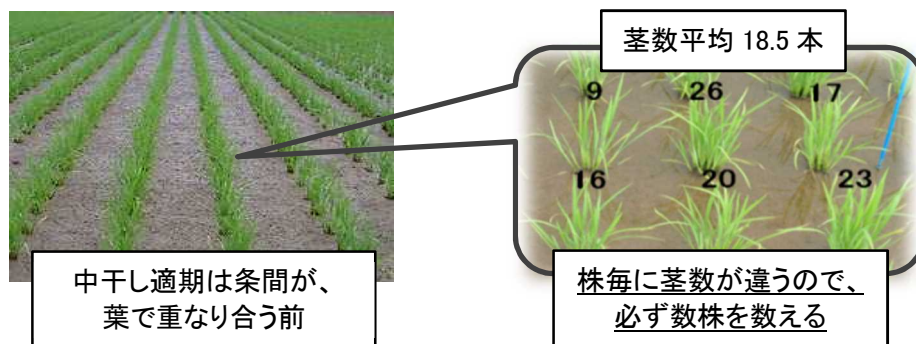


(2) 中干し開始のめやす

- 中干しは、目標穂数の7～8割の茎数を確保したら直ちに開始する。
- 茎数が少なくても、ガス抜きをかねて田植え1か月後には中干しに入る。

表2 品種別中干し開始めやすの茎数(例)

品種	目標穂数 (本/m ²)	めやすの茎数 (本/株)		
		(本/m ²)	50株 植え	60株 植え
コシヒカリ	350	280	18	15
こしいぶき	400	320	21	18
新之助				



(3) 溝切りの実施

- 落水してから数日後に田面がやや固まってから行う。
- 溝は間隔 2.5m 程度、深さ 10cm 以上とし、末端は必ず水口、水尻に繋げる。

3 中干し終了とその後の水管理

- 田面に小ひびが入り軽く足跡がつく程度までしっかり干す。出穂1か月前までには、中干しを終了する。
- 中干し後から出穂1か月前までは間断かん水を行い、草丈の伸長抑制と根の健全化を図る。出穂1か月前から飽水管理に移る。

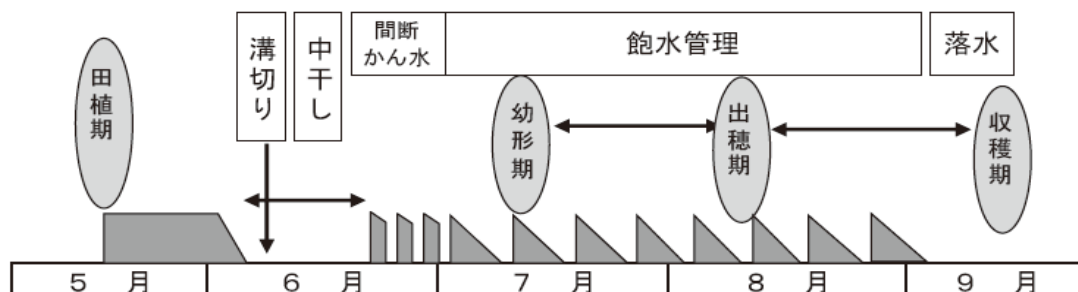


図1 水管理のイメージ

間断かん水：湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す。
 飽水管理：水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったら、かん水する。

4 ケイ酸追肥

- 基肥にケイ酸を施用していない場合、出穂 40 日前～1 回目穂肥の時期に施用（資材で 20～40kg/10a 程度）する。

ーケイ酸の効果ー

- ・イネの水分調節機能が高まり、異常高温時に蒸散量を増やして葉温を下げることで、高温ストレスが軽減され、収量・品質の低下を防ぐ
- ・葉が直立し受光態勢がよくなることで、登熟が向上する
- ・茎が固くなり、倒伏しにくくなる。さらに、いもち病に対する抵抗力が増加する

5 病虫害防除

(1) 葉いもち防除

- 補植苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除く。
- 「新之助」や「わたぼうし」などいもち病に弱い品種で、予防薬剤を育苗箱施用していない場合は、6 月第 2 半旬までに予防粒剤を水面施用する。

(2) 斑点米カメムシ対策

- 雑草種子が結実しない間隔（3～4 週間）で定期的に畦畔や農道等の草刈りを徹底する。
- 水田内に取りこぼしたヒエやホタルイがある場合は、抜き取り、もしくは中・後期除草剤を使用する。

6 「新之助」栽培のポイント

- 異品種混入防止等のため浮き苗は確実に除去する。また、「新之助」作付け 1 年目のほ場では特に、前年の漏生籾由来の稲株を確実に除去する。
- 5 月 20 日以降に田植えしたほ場では、稲株が小さいうちにワキが発生しやすい時期になるため、用水の更新等の対策を徹底し、初期生育の確保に努める。
- 茎数が増えやすい品種のため、中干し・溝切りが遅れないようにする。

メールマガジン登録募集中！

気象や生育状況に基づいた水稻栽培のポイントをお届けします。
初心者もベテランも日々の作業のお供に、ぜひ登録を！



ngt112130@pref.niigata.lg.jp

こちらからもメールできます↑

※件名に「水稻情報メルマガ登録希望」、本文に「お名前」と「住所」をご記入ください